

Yonago East Weekly



【平和という未来に希望を持ち、ロータリーの出会いを楽しみましょう】

- 創立/1968年4月24日 ● 事務所/米子市西福原1-1-55 スマイルホテル米子 Tel.(0859)32-5531
- 例会日/水曜日12:30~13:30 ● 例会場/A N A クラウンプラザホテル米子
米子市久米町53-2 Tel.(0859)36-1111
- 会長/佐田山有史 ● 幹事/船田正一 ● 会報/松浪昭二

出席報告

会員数 105 名
 出席数 74 名 欠席数 25名
 出席免除会員 6名
 荒川(雄)君 杉原(弘)君 新納君
 宮本(守)君 高橋君 小谷君
 出席率 75.96 %

今週のお祝

本人誕生祝：1日 船田正一 君 3日 石部裕一 君
 5日 宮本 守 君 15日 石井敬薫 君
 15日 荒川圭三 君 19日 古杉 淳 君
 20日 伊藤由子 君 22日 森田 進 君
 28日 前田浩寿 君 29日 野津一成 君

スマイルBOX 48,000 円 (735,000 円)

創立記念日祝：内田君、牧田君、宮永君、桶村君
 荒川(雄) 君石井君、井上(賢) 君

本人誕生祝：米田君、木美君、宮本(守)君
 船田君、石井君、古杉君
 伊藤(由)君、前田君

主・夫人誕生祝：上森君、岩崎(稔)君、荒川(圭)君

結婚記念祝：長田君、秦野君、内田君

❖ クリスマス家族例会にて特賞の「スタイラー」
 が当たりました。妻が喜んでおります。
 … 岩崎稔 君

ビジター

メイクアップ

理事 12名 (1/9 第7回理事会)
 会員 2名 (1/9 米子南RC)
 会員 7名 (1/10 インフォメーション)
 会員 5名 (1/10 作文コンテスト引継)
 会員 3名 (1/11 米子中央RC)
 会員 3名 (1/12 米子RC)

【会長挨拶】



おめでとうございます。
 …という言葉が言いにくい年明けでした。
 私も家族が集まって正月を過ごしていたところ
 緊急速報が出て驚きました。自宅が海の近くに
 あり、相当な波音でその水位なども上がってか
 なり緊張した正月を過ごしました。5メートル
 ぐらいの津波が来たら弓浜半島はもうなくなっ
 てしまうのではないかと。その時にはどこに避難
 したらいいだろうかというようなことを話しま
 しながら正月を過ごした次第でございます。
 今年は2024年甲辰ということで、物事の始ま
 りを象徴するようでございます。辰は十二支で
 唯一存在しない動物ということで、上昇機運が
 あり、成長していくということであります。そ
 のようになることを願っております。私が今年
 大きな変革があるだろうと思うのは、史上最
 大の選挙があるということで、70カ国以上で30
 億人を超す有権者の中で投票が行われるとい
 います。これが大きく世界を変えていくだろう

なという思いで注視をしている次第です。
 最後にインドのガンジーの言葉に、「明日死ぬ
 かのうように生きる。永遠を生きるかのうに学
 べ」という言葉があります。
 今年も皆様よろしくお祈りします。

新年の乾杯



《 幹事報告 》

- (1) 河上定弘会員 本日入会 会員数 105名
- (2) R財団寄付表彰 … 立脇会員 PHF1回
- (3) 能登半島地震災害支援のお願い
 ※ 理事会にて50,000円送金することに決定
- (4) フードロスについて
- (5) 本汁例会終了後、米子市中学生作文コンテ
 スト引継ぎ
- (6) 他クラブ例会変更等
 ビジター受付 … 1/11 (木) 米子中央RC
 1/12 (金) 米子RC



新 会 員 紹 介

河上定弘事務所
代 表 河上 定弘 会 員



<本日のプログラム>

「ロータリーの友」紹介
雑誌委員会
西村弥子サブリーダー



横書き

P10 「職業奉仕のさまざまな事例」

P36 「子どもたちを、交通事故から守れ！」

横書き

P15 俳壇 「秋思ふと日本経済強き頃」



「年 男 放 談」

西 村 正 男 会 員



辰

1 自分のこと

ロータリークラブ入会后28年になります。その間、ロータリークラブは私を大切にしてくれたと思って感謝しています。卓話では特にそうで、入会初めの「私の職業」では私は30分しゃべってくれと言われました。その後、裁判員制度などの大きな法改正のときなど話を頼まれたりして、あんな話もこんな話もと数えると、5・6回話をしていると思います。会長をした年にも、毎例会の話とは別に30分話をしました。そのときに日露戦争のときの日本海海戦のことを話しました。

今年は甲辰（きのえたつ）です。ああそうだなと思ったのは京都であったお茶の初釜式の会記を見てのことでした。茶道裏千家米子支部の役員をしていますから家元に呼ばれて初釜式に参加したのです。今の私の趣味はお茶・茶道です。

昨年秋の叙勲で旭日小受賞を賜りました。その伝達式と拝謁に東京へ行きましたので、そのことを話します。私の場合は最高裁判所に呼ばれてそこで伝達式があり、そのあと皇居での拝謁がありました。それらに、私は頑張って和服で出席しました。最高裁判所から出席の案内が来て、それに何を着て行くかも指示されていました。「モーニングまたは紋付き羽織袴」と書いてありました。伝達式と拝謁で御一緒した方々で紋付き羽織袴は私ただ1人でした。日本の男は本当に着物を着なくなったのだなと思いました。これは急激な変化です。私の父親は私の結婚式で紋付きを着ていました。父は家に居るとき着物を着ていました。それを思うと、日本の家には、少なくとも長男から長男へと続いた家には、紋付きを始めとする着物がどこかに眠っているはずで、私が伝達式と拝謁で着た紋付き羽織も父親の物でした。でも、眠っている着物を起こすには関心・興味が必要です。私も実は、家では着物を着ています。仕事から帰ると、背広を脱いで着物を着る日常です。

2 戦前の教育制度

何かタメになる話もしなくてはと思ったことで、多くの皆さんの知らない話ですが簡単なことなので、お配りしたレジュメをお読みいただければ分かります。

要点は、①戦前は、小学校6年、中学校5年、高等学校3年、大学3年だったこと、②中学校から高等学校に進む試験競争が熾烈で、「四当五落」という言葉も生まれ、米中（べいちゅう）の秀才は一高（東京）、三高（京都）、六高（岡山）を目指していたこと、③同年代の小学生のうち中学校に進めた人は8パーセントだったので、それは恵まれた人達だったことです。